

事務連絡
令和5年5月12日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校事務主管課
附属学校を置く各国公立大学法人附属学校事務担当課

御中

文部科学省初等中等教育局教育課程課

持続可能な開発目標（SDGs）副教材
「私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～」の配布について

この度、外務省から、別添事務連絡のとおり、持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶための副教材「私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～」を全国の中学校等（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。以下同じ。）へ、第3学年の生徒数分を配布する旨の連絡がありました。

については、本教材等の配布について御了知の上、各都道府県教育委員会指導事務主管課におかれては、指定都市を除く域内の中学校等を設置する市町村教育委員会及び所管の中学校等に対し、各指定都市教育委員会指導事務主管課におかれては、所管の中学校等に対し、各都道府県私立学校事務主管課におかれては、所轄の中学校等及び中学校等を設置する学校法人に対し、附属学校を置く国公立大学法人附属学校事務担当課におかれては、附属の中学校等に対し、このことについて周知を図るなど、御協力をお願いします。

本教材等については、5月17日以降に外務省及び公益財団法人日本ユニセフ協会から各中学校等に直接配布される予定ですので、その内容については、公益財団法人日本ユニセフ協会学校事業部（SDGs副教材事務局）にお問い合わせいただきますようお願いいたします。また、本教材の活用方法については各学校で適宜ご判断いただいて構わないものであることを申し添えます。

なお、本教材については、外務省ホームページ（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>）からダウンロードが可能とのことですので、併せて連絡いたします。

（本件担当）

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程総括係
TEL：03-5253-4111（内線：2073）

事 務 連 絡
令和5年4月26日

文部科学省初等中等教育局教育課程課 御中

外務省国際協力局地球規模課題総括課

**持続可能な開発目標（SDGs）副教材
「私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～」
の配布について（依頼）**

教育分野における持続可能な開発目標（SDGs）の推進につきまして、日頃から特段の御配慮をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、外務省では、貴課にも多大なる御協力いただき、主に中学校社会科（公民的分野）において活用可能な、SDGsを学ぶための副教材を作成しました。本年度も中学校第3学年を対象として、令和5年5月から全国の中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。以下同じ。）に配布することとしましたので、貴課から教育委員会及び中学校等の関係機関への周知につき、特段の御配慮をいただきますようお願いいたします。

各中学校への副教材の送付時期については、令和5年5月18日以降を予定しております。なお、平成29年度に告示された新しい中学校学習指導要領において、「国際連合における持続可能な開発のための取組」について記載されたほか、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基本的考え方においても、子供たちが持続可能な社会の創り手となることが期待される旨が示されたことを踏まえ、教育委員会等の関係機関に対しても、外務省ホームページ

(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>) から本教材を御覧いただくことが可能である旨、併せて周知していただきますよう、特段の御配慮をお願いいたします。

本件担当：中山

外務省国際協力局地球規模課題総括課

Tel：03-5501-8246（直通）

Fax：03-5501-8452

令和5年5月

各中学校
学校長 様
3年生社会科担当教諭 様

外務省国際協力局地球規模課題総括課
公益財団法人 日本ユニセフ協会

持続可能な開発目標(SDGs)副教材
『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』
送付のご案内(3年生生徒数分)

拝啓 若葉の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

2015年、国連において「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、日本政府も目標の達成に向け、実施指針を策定いたしました。この実施指針では、学校教育におけるSDGs学習等を通じ、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力の育成を掲げております。また、子どもたちにSDGsを持続可能な未来への道標として知らせていこうという動きは、世界的にも高まっております。

外務省および日本ユニセフ協会は、文部科学省の協力のもと、主に中学校社会科(公民的分野)において活用可能な、SDGsを学ぶための副教材を制作いたしました。令和5年度の中学3年生を対象に配布いたしますので、貴校でのご活用をお願いいたします。

送付部数につきましては、自治体や学校総覧で公表されている各校の人数をもとに、一定の予備を含めてお送りしておりますが、不足の際は、以下事務局へご連絡ください。

また、日本ユニセフ協会が本副教材専用のポータルサイトや、SDGs学習サイト(SDGs CLUB)を開設しています。調べ学習や関連映像の視聴等にご活用ください。

この教材が、生徒の皆さんの未来への視野を広げ、様々な社会課題を自らの課題ととらえ、主体的、対話的な深い学びの一助となるよう願っております。

皆様のあたたかいお力添えを、よろしくお願い申し上げます。

敬具

追伸:今後の教材改善のため、授業実施後の忌憚のないご感想やご意見等を同封のアンケートにて事務局までお寄せくださいますようお願いいたします。(アンケートは任意です。)

お問い合わせ: (公財) 日本ユニセフ協会 学校事業部 (SDGs 副教材事務局)

TEL: 03-5789-2014 FAX: 03-5789-2034 Eメール: se-jcu@unicef.or.jp



私たちがつくる 持続可能な世界

SDGsをナビにして



2030年 — 社会の主役となっている君たちのミッション

貧困、紛争、感染症、気候変動、資源の枯渇…

人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面している。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまうとされている。そんな危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てた。それが「**持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)**」である。

SDGsは、「持続可能な世界」を実現するための、いわばナビのようなものである。人類はいま、そのナビが示す方向に進めているだろうか？ そして、君自身はどうだろうか？

様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいのか。また、将来自分はどのように目標達成に貢献できるだろうか。」それを考えることが、2030年の世界で主役となって活躍している君たちに課せられたミッションである。

さあ、持続可能な世界を創るために、
一歩を踏み出そう！

SDGs とは？

- ◆ 2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
- ◆ 国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めた全ての人が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている
- ◆ キーワードは「誰ひとり取り残さない」

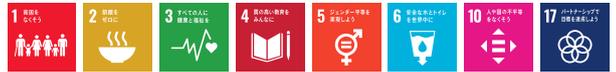


年 組



unicef





生まれる環境は選ぶことができない。世界にはどのような不平等があるのか見てみよう。

5歳になる前に亡くなる子どもが多い国 赤色 黄色 はどのような国でしょう?

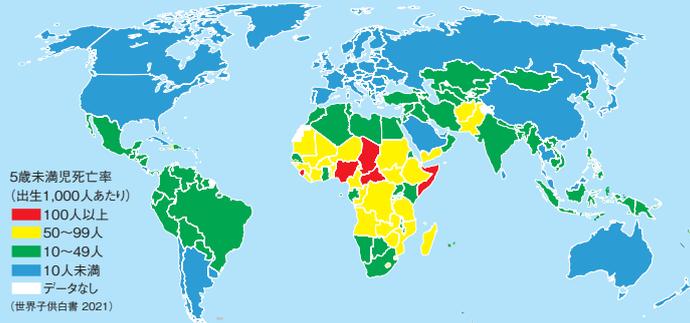
年間500万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。*1 約6秒に1人、世界のどこかで幼い命が失われているのです。

▶▶ 目標



約6,700万人の小学校就学年齢の子どもたちが、学校に通えずにいます。*2 「女の子だから」「貧しいから」「障がいがあるから」、理由は様々です。

▶▶ 目標



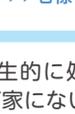
極度の貧困状態のもとで暮らしている人は世界に6億4,800万人。うち半分以上が子ども(52%)。*3 新型コロナウイルスによる経済悪化の影響で、貧困に苦しむ人が増える可能性が指摘されています。*国際基準で定められた1日2.15米ドル未満の生活

▶▶ 目標



日本のように安全な水が必要な時に家で利用できない人が20億人。このうち1億2,200万人は池や河川、用水路などの水をそのまま使っています。*4

▶▶ 目標



排泄物を衛生的に処理できるトイレが家にはない人は36億人。このうち4億9,400万人が、草むらなど屋外で用を足しています。*5

▶▶ 目標



世界の赤ちゃんとお母さんを守る日本発祥の「母子健康手帳」



日本は、乳児死亡率が世界で一番低い国の一つです。一役買っているのが「母子健康手帳」。妊娠中及び出産時の母子の状態、子どもの成長・健康状況を、継続的に記録するための冊子です。予防接種や健診、成長のようすが一目でわかり、問題があったときにも早く発見し、対処することができます。

日本は政府開発援助(ODA)を活用して20年ほど前から、アジア・アフリカ諸国で母子健康手帳を広める国際協力を進めています。お母さんや家族の保健の知識を向上させ、妊産婦と乳幼児の健康状態を改善していく。母子健康手帳にはそんな知恵が詰まっています。

生まれる環境は誰も選ぶことができません。自分ではどうしようもないことで、将来の制約を受ける、そんな不平等を克服するための、ひとつの取り組みです。

開発途上国の多くのお母さんと赤ちゃんが直面している問題にかかわるデータ

<産前・産後のケアの不足> 妊娠・出産中の合併症が原因で死亡する女性は、年間約29万5,000人(1日808人)もいます。*6

<栄養不良> 世界の5歳未満児の22%(1億4,920万人)が日常的に栄養を十分に取れず、発育障害の状態にあります。*7 乳幼児期の栄養の不足は、身体だけでなく知能の発達も遅らせ、その影響は生涯にわたるものとなります。



JICA(国際協力機構)が支援するパレスチナの母子健康手帳

格差や貧困は、途上国だけでなく、日本も含めた先進国の中でも問題になっています。



性別を理由に機会の不平等が起こることがあります。例えば、教育を受けられる女子の割合が男子よりも低い国も多くあります。また、国会議員に占める女性の割合は世界的に低く(日本の衆議院における女性議員比率は9.9%で調査対象186カ国中164位*8)、男女が意思決定の過程に積極的に参画し、多様な意思が政治や政策に反映されていくようにすることはとても重要です。日本政府も「2030年代には、誰もが性別を意識することなく活躍でき、指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会となることを目指す」との目標を掲げ、取り組みを進めています。



先進国の子どもたちの状況を子どもに関連の深いSDGsの目標について比較したユニセフの調査によれば、日本は貧困の撲滅については23位(37カ国中)、格差の縮小については32位(41カ国中)でした。*9

先進国の貧困を表すのによく使われる「相対的貧困」と、開発途上国の貧困を表すのによく使われる「絶対的貧困」には、どのような違いがあるかな?



企業の力で社会の課題を解決

医療、安全な水や衛生、十分な栄養など、世界には「生きていく上で最低限必要なものを手に入れられるかどうか」にさえ不平等があります。そうした不平等を、企業が持っている技術力や専門性を生かして克服しようとする取り組みが広がっています。

例えば、貧しい人でもまかなえる価格で設置できるトイレや安価な医薬品の開発と普及、マラリア予防の蚊帳の開発、貧しい地域での浄水・給水事業、乳幼児の栄養改善食の開発など、日本企業も様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

携帯電話やドローン、衛星技術など、企業が開発する新しい技術も、こうした課題解決にますます貢献すると期待されています。



マラウイで、HIV/エイズ検査の検体を都市の病院に届けるドローン。ユニセフと企業が協力している。

*1 Levels and trends in child mortality 2022, UNICEF *2 New estimation confirms out-of-school population is growing in sub-Saharan Africa 2022, UNESCO UIS/UNESCO GEMR *3 Poverty and Shared Prosperity 2022, World Bank Group *4,5 Progress on household drinking water and sanitation and hygiene 2000 - 2020, WHO/UNICEF JMP *6 Trends in maternal mortality: 2000 to 2017: estimates by WHO, UNICEF, UNFPA, World Bank Group and the United Nations Population Division, Geneva: World Health Organization, 2019 *7 Levels and trends in child malnutrition: UNICEF/WHO/The World Bank Group joint child malnutrition estimates: key findings of the 2021 edition *8 「女性の政治参画マップ2022」(令和4年9月作成)、内閣府男女共同参画局 *9 ユニセフレポートカード14 未来を築く先進国の子どもたちと持続可能な開発目標(SDGs), 2017

SDGsは、平和で、暴力や差別のない世界を目指しています。

現在の世界には、どのような問題があるでしょう?



児童労働

1億6,000万人の子どもが働かされています。^{※1}新型コロナウイルスの影響下で、児童労働に従事する子どもの人数は過去20年で初めて増加に転じました。



© UNICEF/UN067752/Sokhin



児童婚

18歳未満で結婚した女性は、6億5,000万人います。^{※2}妊娠・出産時のリスクが高まるほか、教育機会が奪われることなどにより将来や次世代にも影響が及びます。新型コロナウイルスの影響で児童婚が増える可能性が指摘されています。^{※3}



私たちの日常にある子どもへの暴力

虐待 世界では2~4歳児の約4分の3が、家庭内で体罰や精神的虐待を受けているとの調査結果があります。^{※4}日本でも、子どもが虐待や体罰を受ける事件が起きています。

ネットの危険 インターネットは差別的な書き込みやいじめの場にもなります。日本では、明らかになっているだけでも、年間約1,700人の子どもがSNSを通じて性犯罪等に巻き込まれています。^{※5}

いじめ 13~15歳の子どもの約3人に1人がいじめを経験しているとの調査結果があります。^{※6}



世界の紛争と子どもたち

暮らし 子どもたちは恐怖にさらされ、健康に育つ機会や教育の機会を奪われています。紛争地域に暮らす子どもの数は約4億人にのぼります。^{※7}

巻き込まれる子ども 戦闘員、料理係、スパイ役、メッセンジャーなどとして武力紛争に巻き込まれている子どもは、世界で数万人いると推定されています。

移動する子ども(移民・難民) 2021年、故郷を離れ移動せざるをえなくなった推定8,940万人のうち、42%(3,730万人)は子どもでした。うち1,000万人の子どもは国外に逃れ難民となりました。子どもだけで国境を越える例もあり、人身売買や暴力、遭難など多くの危険がともないます。^{※8}

紛争や自然災害、難民・避難民の発生、治安状況の悪化等の人道危機が発生している国と地域(2022年末時点)



出典: Humanitarian Action for Children 2023をもとに日本ユニセフ協会が作成
(赤:人道危機等のために資金支援を要請している国)

それぞれどのような問題が起きているのか、調べてみましょう。詳しい説明を読んでみよう! >>



様々な差別

世界には、性別、障がい、人種、民族、社会的立場、宗教など様々な理由で差別される人々がいます。差別は暴力にもつながりやすく、差別をなくすため、条約や法律などが作られ、取り組みが進められています。例えば児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)は、どのような理由でも子どもは差別されないことを定めています。

日本でも、差別をなくすために...

外国人への差別とも受け取れる応援が問題となったサッカーチームは、「差別撲滅」を宣言し、チームとサポーターが協力して取り組んでいます。

イノベーションで子どもの課題を解決

世界では5歳未満の約4人に1人が、出生登録されていません。^{※9}出生登録がないと、保健サービスや教育が受けられないことや、児童労働につながることもあります(なお、日本では無戸籍の子どもであっても、様々な支援が行われています)。2016年、ユニセフはタンザニア政府と、スマートフォンを使った出生登録を試験的に開始。対象の2州において10.3%だった登録率が95%以上にまで伸びました。^{※10}



© UNICEF/UN012562/Adriko



© UNICEF/UNI145732/Esobo

スマートフォンなどを活用した出生登録は他の国でも試されています。(写真はウガンダ)



難民の少女、自ら親たちを説得

2013年、紛争中のシリアから家族とともにヨルダンに逃れたマズーン・メレハンさん。「教育こそが人生の鍵だと分かっていたので、国を出る時に持っていた唯一の荷物は、教科書でした」難民キャンプで暮らし、シリア難民の子どもたちが児童婚や児童労働を強いられるのを見て、キャンプ内のテントを訪ね歩き、子どもを学校に通い続けさせるよう親たちを説得しました。2017年、19歳でユニセフの最も若い親善大使に任命され、紛争下の特に女子の教育の重要性を訴え続けています。



© UNICEF/UN060339/Sokhin



平和と安全・安心な社会の実現

日本は、世界各地で、①社会資本の復興、②経済活動の復興、③政府の統治機能の回復、④治安強化を柱に平和構築を支援しています。例えば、40年近く紛争が続いたフィリピン南部のミンダナオ島では、和平交渉プロセスに貢献し、和平合意後は、新たな自治政府の体制づくり、人々の生活の向上、中長期の地域開発を支援しています。

※1 Child Labour: Global estimates 2020, trends and the road forward, ILO ※2 Towards ending child marriage: Global trends and profiles of progress, 2021, UNICEF ※3 COVID-19: A threat to progress against child marriage, 2021 ※4 6 A Familiar Face: Violence in the lives of children and adolescents, 2017, UNICEF(それぞれ94カ国と149カ国のデータ。どちらも日本は含まれていません。) ※5 令和4年における少年非行及び子供の性被害の状況、警察庁 ※7 Children out of school, primary - Fragile and conflict affected situations, UNESCO Institute for Statistics, Data as of September 2021 ※8 Education, Children on the move and Inclusion in Education, UNICEF, February 2022 ※9 世界子供白書2021, UNICEF ※10 unicef news vol.254 (summer 2017) P.10

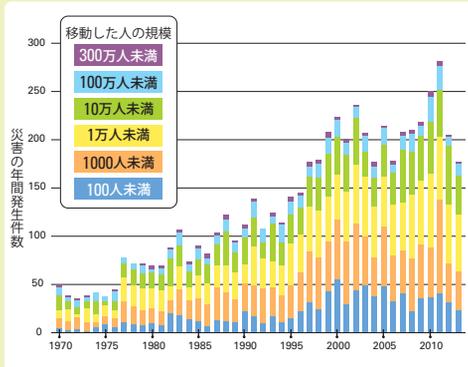
13 地球環境を守ろう!

目標



今地球上で起こっている気候変動や環境問題。どのような課題と結び付いているでしょう?

住民の移動を余儀なくさせる災害の年間発生件数(1970~2013)



頻発する干ばつ、砂漠化、スーパー台風、豪雨など、増加している災害は、やむなく移動を強いられる人、食糧危機にさらされる人が増える原因にもなっています。

グラフ: Unless we act now: The impact of climate change on children, UNICEF, The Internal Displacement Monitoring Centre (IDMC), Disaster-related displacement risk: measuring the risk and addressing its drivers, 2015

人口増加、製造業、水力発電、生活用水への水需要の増加、気候変動による利用可能な水資源量の変化などにより**深刻な水不足**が起きています。水資源の取り合いが**紛争**に結び付く危険もあります。

特に途上国の都市部で深刻な**大気汚染**が発生しています。

原子力発電には温室効果ガスを排出しない利点がある一方で、**放射性廃棄物の処分**という課題があります。

大気中の**温室効果ガス**が増え続けています。温暖化による海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えています。また、感染症を媒介する生物の生息域が広がり、例えば、**マラリア、デング熱、ジカ熱**など、蚊が媒介する病気の感染地域が広がることも懸念されています。

プランテーションや土地の開発のために、**熱帯雨林や森林が伐採**され、動植物が**絶滅**したり、生物多様性が失われたりしています。

日本のBOSAI(防災)を世界で役立てる 災害に備え、復興する力を

自然災害の被害を減らすための備えと、被害から少しでも早く復興する力が世界で注目されています。

災害が多く、長年防災に取り組んでいる日本には、様々な技術や仕組み、経験があります。これらを世界の自然災害被害の減少に役立てていくために防災に関する国際協力が活発に行われています。これまで3回の国連防災世界会議が横浜・神戸・仙台で開催されるなど、世界の防災力強化のために日本は多くの貢献をしています。

福島県相馬市では、2011年の震災の経験を子どもたちが「生きる力」を学ぶ機会として活用しようと「ふるさと相馬子ども復興会議」を開きました。子どもたちがふるさとの今と未来を考えて学習、将来の災害の可能性を知り、ふるさとの備えの有効性を検証しています。仙台で開催された国連防災世界会議のパブリックフォーラムでは、相馬市立飯豊小学校の6年生がその取り組みを発表しました。



「海洋」の恵みは 何とつながっている?

地表の7割を占める海。津波や台風など大きな災害をもたらすこともありますが、日々の食事に欠かせない海産物を供給するだけでなく、豊かな生態系や海水温が気候の安定に大きな役割を果たしていることも分かっています。

近年、大量のごみや汚染物質の海への流出、資源の乱獲、海洋酸性化、サンゴ礁やマングローブ林の減少、海水温の上昇など、海洋は危機的な問題に直面しています。人類共通の財産である海洋の豊かさを守り利用することは、SDGsの17個の目標のどれとつながっているか考えてみましょう。

政府・企業の連携で環境に やさしい持続可能な社会を作る

二酸化炭素など温室効果ガスを削減するための国際的な枠組み(パリ協定)ができました。日本も参加し、政府は、環境にやさしい暮らしを後押しし、太陽光など再生可能エネルギーの利用を進める仕組みを作り、また、企業を中心に省エネ技術や環境保護技術の開発も進んでいます。

製品の生産や流通の過程で生まれる廃棄物や二酸化炭素、使用するエネルギーや資源の量を減らし、環境への負荷を少なくするために積極的に取り組み、SDGs達成への貢献を掲げる企業も増えています。関心のある企業のホームページを見て、どのような取り組みがあるか、調べてみましょう。

このマークはどんな意味?

買い物の時など、こんなマークのついた商品を見たことがありますか? それぞれどのような商品であることを示しているか調べてみましょう。



パーム油をめぐる話

アブラヤシから採れるパーム油。菓子など様々な加工食品や洗剤に使われています。原材料に「植物油脂」と表示され気づきにくいのですが、私たちはこの便利な油を日々摂取しています。同時にパーム油の生産のために広大な熱帯雨林が伐採されていることもあまり知られていません。アブラヤシの栽培に適した赤道下のマレーシアやインドネシアの熱帯雨林には、ゾウやオランウータンをはじめ多種多様な動植物が生きています。熱帯雨林は、パーム油生産のため広大なアブラヤシのプランテーションに変わり、動植物は生きる場を奪われ、多様性は失われています。問題の解決に向けて、パーム油の生産者に加え、油を売り、買う企業やNGOなどが一緒になって、持続可能な形でパーム油を使えるようにするための取り組みが2000年代に入って活発になっています。私たちはどのようなものを食べ、使っているのか、調べてみましょう。



名前

のミッション!

「持続可能な世界にしていくために、これから何をするのかを考えよう。」

ミッションの達成をめざして **1** ~ **4** のステージに取り組もう。

STAGE 1 SDGsの目標は以下の17項目。これまでに学習したことを思い出しながら、優先的に取り組んでいきたいと思う目標を、1~3まで順位をつけてみよう。また、その理由も書いてみよう。

目標	順位	理由
 <p>あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせよう</p>		
 <p>飢餓を終わらせ、全ての人々が一年を通して栄養のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう</p>		
 <p>あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進しよう</p>		
 <p>全ての人々が受けられる公正で質の高い教育の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう</p>		
 <p>男女平等を達成し、全ての女性及び女性の能力の可能性を伸ばそう</p>		
 <p>全ての人々が安全な水とトイレを利用できるようにし、衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう</p>		
 <p>全ての人々が、安く安定した持続可能な近代的エネルギーを利用できるようにしよう</p>		
 <p>誰も取り残さないで持続可能な経済成長を促進し、全ての人々が生産的で働きがいのある人間らしい仕事に就くことができるようにしよう</p>		
 <p>災害に強いインフラを作り、持続可能な形で産業を発展させイノベーションを推進していこう</p>		
 <p>国内及び国家間の不平等を見直そう</p>		
 <p>安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境を実現しよう</p>		
 <p>持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めていこう</p>		
 <p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう</p>		
 <p>持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続可能な形で利用しよう</p>		
 <p>陸上の生態系や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう</p>		
 <p>持続可能な開発のための平和的で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人々が法や制度で守られる社会を構築しよう</p>		
 <p>目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて世界のみんなで協力しよう</p>		

※ここに掲載されている17個の目標は、外務省の仮訳を参考に、教材のためにわかりやすく意識したものです。

STAGE 2 班やクラスの間とそれぞれが選んだ目標や、その目標を選んだ理由を話し合ってみよう。

STAGE 3 これからの社会を、持続可能でよりよいものとするためにはどうしたらよいただろう。
話し合った内容をもとに、これから解決策を考えたいと思った目標や課題を書き出してみよう。

取り組んでいきたい目標や課題

取り組んでいきたい目標や課題についてレポートを作成してみよう!

設定した課題や目標について、さらに詳しく調べて、自分の考えをレポートにまとめてみよう。レポートの最後には、課題の解決や目標の達成に向けた「行動宣言」を書いてみよう。課題を考えるときは「自分で解決できること／他の人や社会全体と協力して解決できること」「地域の課題／世界の課題」、解決策を考えるときは「今できること／将来取り組みたいこと」など、様々な視点から考えてみよう。まとめた後に、発表や、意見交換をすることでさらに考えを深めていこう。



「人のためになるようなテクノロジーの仕事に就きたい!」

エリフ・ビルギンさん(16歳 トルコ)

2年間かけて、本来なら廃棄されるだけのバナナの皮から環境にやさしいバイオ・プラスチックを開発しました。



「規格外の野菜で作った国産飼料で、純国産の豚肉を生産!」

北海道美幌高等学校 生産環境科学科

町の特産品の野菜(じゃがいも、カボチャ、にんじん)の中で、規格外として廃棄される野菜で豚の飼料を開発。国産飼料で育てられたブランド豚の生産、商品開発に取り組みました。また、豚のふんを堆肥にし、特産品の栽培に活用。循環型養豚経営を構築しました。



「目が不自由な人がかけている眼鏡をもっと役立つものになりたい!」

アナンさん(中学生 インド)

目の不自由な人が周囲の状況が分かるよう、超音波を使って周囲を感知できる機能の付いた眼鏡を発明しました。廃棄された携帯電話の部品などを使って作られたこの眼鏡、大学の先生とも協力して更に改良が進められています。



「子どもたちにとってよりよい世界をつくりたい!」

イングリッドさん(14歳 ブラジル)

ブラジルに来る難民の子どもたちにおもちゃや本を寄付する活動を通して、難民の子どもたちの生きる権利や遊ぶ権利を守ろうとしています。イングリッドさんはSNSを使ってこうした活動を伝え、社会を変えたい仲間とつながっています。



世界には、世界を変えようと一歩を踏み出した仲間たちがたくさんいるよ。どんなことをしているのか見てみよう!

「島の美しい自然を守るためにレジ袋をやめよう!」

ムラティ(10歳)・イザベル(12歳) 姉妹(インドネシア)

2018年までにバリでのレジ袋使用を廃止するよう市長に約束してもらうために、請願書の作成、ビーチの清掃活動などを実施、彼女たちの願いが受け入れられました。



STAGE 4 行動宣言:2030年にむかって、君たちがしていきたいこと。

行動宣言

この行動宣言はSDGsのどの目標につながっているだろう。アイコンに○をつけてみよう。



自分の行動宣言を送ってみよう! みんなの行動宣言も見られるよ。



<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

発展 それぞれの行動宣言を発表しあおう!そして、さらに深く話し合ってみよう!

本副教材は2017~2018年にかけて開催された以下の会議・部会を経て制作されました。会議および部会の協力者は以下の通りです。

役職は会議・部会開催当時のものです。

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための協力者会議」

及川 幸彦 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センター主幹研究員 大谷 美紀子 弁護士 国連子どもの権利委員会委員
久木 純 関西学院大学SGU招聘客員教授(元UNICEFカザフスタン事務所代表) 竹原 眞 関東ブロック中学校社会科教育研究会会長
内藤 徹 国際協力機構(JICA)広報室地球ひろば推進課長 早水 研 日本ユニセフ協会専務理事

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための作業部会」(座長 竹原 眞)

金城 和秀 (都中社研 公民専門委員) 中野 英水 (都中社研 地理専門委員) 藤田 琢治 (都中社研 公民専門委員)

事務局:公益財団法人日本ユニセフ協会 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス ☎ 03-5789-2014

初版発行:2018年9月 第6版発行:2023年4月 ©日本ユニセフ協会



リソナグループ

本副教材は、リソナグループからの支援により印刷・配布されております



*敬称略。五十音順。



私たちがつくる持続可能な世界 ~ SDGs をナビにして ~

— 指導用参考資料 —

- ◆本教材は、中学校学習指導要領の社会科(公民的分野)の「2 内容」の「D 私たちと国際社会の諸課題」の「(2) よりよい社会を目指して」で活用していただくことをねらいとして作成したものです。よりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、P. 1～3 に示す例を踏まえて、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する流れで構成しています。
- ◆中学校での活用に限らず、全ての学校種において「よりよい社会をつくるために何ができるか」を考える様々な学習での活用が可能です。

1 学習の前に ~SDGs…Sustainable (持続可能な) Development (開発) Goals (目標) とは~

●SDGsはどのような歴史や現状から生まれてきたのだろう

1945年の国連創設以来、「言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救う*うために、基本的人権と人間の尊厳・価値を守ることが世界の大きな目標となりました>(*国連憲章前文)。この目的の実現のために、**世界人権宣言**を端緒として様々な人権条約が採択され、**人権を守る仕組み**が整えられてきました。

同時に、厳しい状況下に生きる人びとの人権を守るための開発支援や環境保護活動も行われ、国際社会が協力して課題解決

に取り組むよう、様々な宣言や開発目標が示されました。中でも2000年に採択されたMDGs(ミレニアム開発目標)という包括的な開発目標は大きな成果をあげました。その一方で、「平均値」で見ると進歩の陰に取り残される人びとや、格差や暴力、気候変動など新たな課題の影響も顕著になり、緊急で大胆な解決策が必要と認識されるようになりました。そこで、「**誰ひとり取り残さない(No one left behind)**」世界の実現を掲げ、あらゆる国と人の目標としてSDGs(持続可能な開発目標)が作られました。

2000年から2015年まで MDGs (ミレニアム開発目標)	2016年から2030年まで SDGs (持続可能な開発目標)
<ul style="list-style-type: none"> ● 8のゴール(目標)、21のターゲット ● 途上国の課題解決を目標とし、先進国はそれを支援する ● 主に開発(社会)の目標 ● 平均値で進展を測る <p>【MDGsの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> -極度の貧困状態にある人の割合47%(1990年)→14%(2015年) -小学校の純就学率83%(2000年)→91%(2015年) -5歳未満児死亡率(1000人あたり)90人(1990年)→43人(2015年) -妊産婦の死亡率1990年以降45%減少 -HIVへの新たな感染2013年までに約40%低下 など <p>(国連ミレニアム開発目標報告2015)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 17のゴール(目標)、169のターゲット ● 途上国も先進国も共通で取り組むべき普遍的な目標 ● 社会、経済、環境三側面の調和に配慮する目標 ● 全ての人のための目標の達成を目指し、最も脆弱な立場の人に焦点をあてる=「誰ひとり取り残さない」 <p>【SDGsの特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> -多様な主体(政府、企業、市民社会等)の参加とパートナーシップが求められている -野心的な目標とターゲット(目標達成を前提に、今すべきことを考え実行する「バックカスティング」の考え方) -子どもは保護の対象であるだけでなく「変化の主体」とも位置付けられている

●SDGsの「決意」と「目指す世界」:前文と宣言も読んでみよう

SDGsの17の目標は2015年9月の国連総会で採択された文書『我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ』の中で示されました。37ページ(英語版は35ページ)から成るこの文書のおよそ3分の1を費やして前文と宣言が記されています。

前文では、**People(人)**、**Prosperity(豊かさ)**、**Planet(地球)**、**Peace(平和)**、**Partnership(パートナーシップ)**の5つの側面からこの目標の「決意」が示されています。

宣言には、**目指す世界**や今日の課題などが具体的に描かれ、「我々は、貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に、地球を救う機会を持つ最後の世代になるかも知れない」「人類と地球の未来は我々の手の中にある。そしてまた、それは未来の世代にたいまつを受け渡す今日の若い世代の手の中にもある」と世界を変える行動の呼びかけで締めくくられています。

※外務省のウェブサイトから文書全体(仮訳)のダウンロードが可能です。



2 学習計画の例

※生徒それぞれが、これまでの学習を思い出すなどしながら、この教材を入り口に関心のある課題を見つけ、そこから考え、理解を広げ深めていけるよう指導する(SDGsのゴール1~17の内容を一つずつ指導することは意図していない)。

※時数配分や中間交流、補助資料の作成などは学校の状況にあわせて変更可。

※授業の流れについては、「課題解決のための情報収集、考察、構想→レポート作成→発表・意見交換」または「課題解決のための情報収集、考察、構想→発表・意見交換→レポート作成」など、いずれの流れでも実施可。

次	学習内容	指導上の留意点
1	<p>○単元の流れの説明</p> <p>・【表紙、P.4、5(Stage①~④)】教材を読み、今後の授業の流れを把握する。</p> <p>○課題の設定</p> <p>・【P.1~3】前単元の内容や、教材内で紹介されているトピックを参考に、持続可能な社会を妨げている問題を理解する。</p> <p>・【P.4(Stage①)】SDGsの17個の目標のうち、優先して取り組むべき課題はどれかを選ぶ。</p> <p>・【P.4(Stage②)】グループになり、それぞれが優先すべきと思った課題とその理由を発表し合う。</p> <p>・【P.5(Stage③)】生徒個人が「持続可能な社会に向けて、解決すべき問題」を考える。</p>	<p>・本単元では、①自分の興味・関心のある課題について調べ、考察、構想したことをグループで発表(中間発表)する、②各自がレポートを作成する、③行動宣言を書くことを説明する。</p> <p>・世界の課題と自分との繋がり(自分から遠いように見える世界の課題が、商品の生産・消費サイクルなどを通じて自分と繋がっているしくみを想像させる等)、また、課題同士が相互に密接に関連していることに気付かせる。</p> <p>・日本のSDGsの達成進捗状況を見せることなどを通して、SDGsは先進国の問題でもあることを認識させる。</p> <p>・「これまでに学んだことで役に立ちそうなことはないか」「どのようにして調べたらよいか」などについて見通しを持たせる。</p> <p>・聞き手にとって分かりやすい発表にするため、補助資料を作成するよう指示する。また、この補助資料は、レポート作成に活用してよいことを予め伝えておく。</p>
2	<p>○情報収集、考察、構想</p> <p>・必要な情報を収集し、補助資料を作成するなど中間発表の準備をする。</p>	<p>・対立と合意、効率と公正、個人の尊重等の視点から持続可能な社会を築くためにどうしたらよいか考えさせる。</p> <p>・必要に応じて、資料の標題、出典、年代、作成者等を確認し、その信頼性を踏まえて情報を収集するよう助言する。</p>
3	<p>○中間交流(発表・意見交換)</p> <p>・発表練習を行う。</p> <p>・グループごとに各々が調べた内容を発表する。(発表時間は一人3分。その後2分の質問時間)</p>	<p>・他の人の発表から、持続可能な社会の構築には様々な課題を解決する必要があることに気付かせる。</p> <p>・レポートを書く際に、他の生徒が作成した補助資料を有効に活用するよう助言する。</p>
4	<p>○レポート作成</p> <p>・「私たちがつくる持続可能な世界」「持続可能な世界をめざして」「よりよい社会レポート」「2030年に向かって、私がしていきたいこと」「〇〇への提言」等のタイトルで作成する。</p>	<p>・対立と合意、効率と公正などの視点から自分が選択したテーマについて考察、構想させる。(構想したことが「自分の行動宣言」に繋がるように指導する。)</p> <p>・考察、構想の過程と結果について、他の生徒が作成した補助資料を有効に活用させ、効果的に、かつ分かりやすくまとめさせる。</p>
5	<p>○レポートの概要や行動宣言を発表し合う。</p>	<p>・企業、政府、日本の国際協力機関、国際機関、民間団体など、様々な立場で、世界の課題の解決に貢献できることに気付かせる。</p>

発展 さらに深く話し合ってみよう!

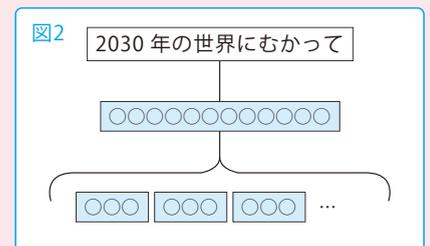
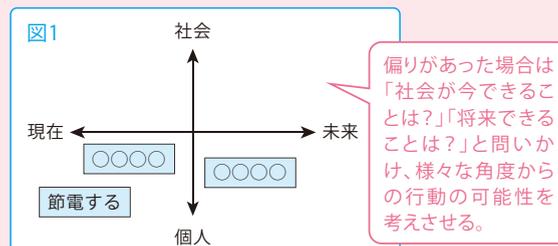
【発展のねらい】

協働の大切さを感じさせること

「行動宣言の発表」に終わるのではなく、**行動宣言同士の繋がり、問題同士の繋がり**を見つけ、協力し合うことでよりよい行動宣言が生まれないかを考えることで、お互いに協力しあうことの大切さ、目標17「パートナーシップ」の重要性(特異性)に気付かせる。

【話し合いのテーマ例】

- ・行動宣言を可視化・分析してみよう!みんなの行動宣言は「今できること?将来できること?」「個人でできること?みんなで協力してできること?」(例:図1)
- ・それぞれの行動宣言を繋げて、足して、よりよいもの・新しいもの(行動宣言、目標、提言、構想等)が生まれませんか考えてみよう!(例:図2)



3 教材活用の留意点



導入に使える動画



World's Largest Lessonより

『世界に広めよう「持続可能な開発目標 (SDGs)」』

- I : 今日の課題、SDGsの誕生について (6分26秒)
- II : 世界の若者の取組例 (5分16秒)
- III : 自分にできることを考えてみよう (4分32秒)

数値の出典にリンク

さらに詳しい学習をしたいとき、最新の数値を確認したいときにご活用いただけます。

「企業の方で社会の課題を解決」や「イノベーションで子どもの問題を解決」のコラムには、該当するSDGs目標のアイコンが明記してありません。これらの取組は「目標9：イノベーション」「目標17：パートナーシップ」など、多くの目標に関わる取組であるという学習者の気付きを促します。

JICAの取組・企業や団体の取組のサイトへのリンク



課題同士が相互に密接に関連していて、その解決には様々な関係者の協力が不可欠であることの理解を促します。

川の左はアブラヤシのプランテーション、右はもたらあった熱帯雨林。

これまで学習したこと、自身の経験や興味関心を踏まえ、優先的に解決していきたい課題を選び、その理由を書きます。他の学習者と優先順位が一緒である必要はありません。

Stage②で関心のある目標やその理由を班やクラスの仲間と共有しながら、Stage③でそれぞれが解決策を考えたい課題を見つげられるように促します。



この部分が重要。留意して指導する。



若者たちのストーリー

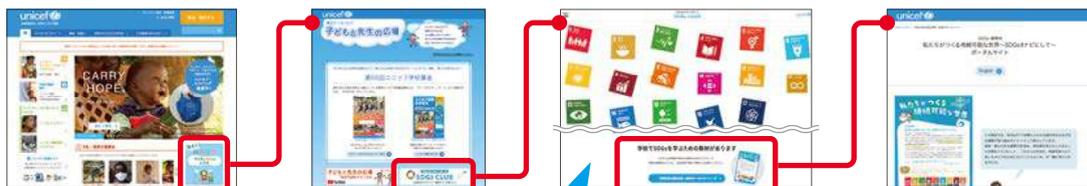
行動宣言は今すぐ身近にできること(例：節電する、募金する等)で完結させず(それが間違っているわけではない)、「今からできること、将来できること、将来のために今できること」など、様々な視点で考えるように促します(上記の黄色い吹き出し部分も参照)。SDGs CLUBから自分の行動宣言を送ったり、他の人の行動宣言を見たりすることも可能。



「SDGs副教材ポータルサイト」をご活用ください!

www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai もしくは [ユニセフ SDGs 教材](#)

日本ユニセフ協会
ホームページ
(www.unicef.or.jp)
からのアクセス方法



SDGs CLUB (www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/)では、17の目標のもとにある169のターゲットの「子ども訳」、目標ごとの課題を学べる動画やグラフを掲載しているほか、SDGsが生まれた歴史や現状、前文や宣言などについても学ぶことができます。SDGs副教材の学びの補完に、ぜひご活用ください。

4 ワークシート例

※以下のワークシートを SDGs 副教材ポータルサイトからダウンロードすることができます。(PDF 版、Word 版)

※Word 版をダウンロードしていただき、授業者が生徒の学習状況に合わせて自由に作り直していただいて構いません。

<p>記入例 私たちがつくる持続可能な世界 ~SDGs をナビにして~</p> <p>()年()組 ()番 名前()</p> <p>みなさんは、これまでの学習で、現代社会の様々な課題を学び、自分たちなりに解決策を考えてきました。みなさんのアイデアや力が、世界のみならず、2030年までに達成しようとした『持続可能な目標(Sustainable Development Goals)』を達成する大きな力になります。</p> <p>これからの社会を持続可能で、よりよいものにするためにはどうしたらよいでしょうか。また、あなたは何ができてでしょうか。レポートにまとめてみましょう。</p> <p>1. テーマの設定 冊子に掲載されているトピックを参考に、あなたがこれから解決策を考えたいと思った目標や課題を書きましょう。</p> <p><テーマ></p> <p>(例) 飢餓に苦しむ人がいない世界を</p> <p><そのテーマ(目標や課題)を選んだ理由></p> <p>(例) 日本で食品ロスが問題になる一方で、未だに世界には飢餓に苦しむ人がいることがショックで、なぜ、飢餓に苦しむ人がまだいるのか、また、その問題はどうかやったら解決できるのか調べたいと思ったから。</p> <p>2. テーマを探究するため必要な資料・調査の方法</p> <ul style="list-style-type: none">・(例) インターネット、本・・ <p>3. 現状・調査結果(調べて分かったこと)</p> <p>(例) 年間500万人もの子どもが5歳になる前に命を落としており、その原因のほとんどは予防可能な病気や栄養不良が関係している。小さいころに栄養が摂れないことは、脳の発達にもかかわり、その子の生涯に影響する。(日本ユニセフ協会ホームページより)</p> <p>日本で廃棄される食品は年間〇〇トン。日本に輸入されている食品は年間〇〇トン。(農林水産省ホームページ)</p> <p>アフリカでは植民地時代に宗主国が求めるコーヒーや紅茶、たばこといった一次産品の生産に偏った経済構造が構築された。自給的な少量生産が圧迫され、一種類の作物に依存しているため、気候変動や病虫害の影響が大きく、生活が不安定になりやすい。(公民の教科書より)</p>	<p>()年()組 ()番 名前()</p> <p>4. 解決策(現在行われている取り組み・将来に向けた取り組み)</p> <p>(例) ユニセフ(国連児童基金)が、栄養治療食を提供して子どもの栄養治療をしたり、母親や家族に栄養に関する知識を広めたりしている。</p> <p>WFP(世界食糧計画)が干ばつなどで食糧が不足するところに、毎年平均9000万人分の食糧支援を行ったり、学校給食を届けたりしている。</p> <p>地域の経済を支えるため、支援活動で使う食糧は現地の小規模農家から購入している。JICA(国際協力機構)はタンザニアで30年以上、灌漑設備を整えたり、日本の農業技術を伝えたりする活動を行っている。</p> <p>輸出用の商品作物が作られていることも多いため、穀物や野菜へ作物を転換するような働きかけも行われている。先進国が家畜用の穀物輸入を減らし、国産飼料を調達する動きもある。北海道の高校では、廃棄される農産物を再利用して飼料にする取組を行った。</p> <p>5. 分析や考察の結果・自分の考え</p> <p>(例) これまで私は、アフリカは気候的に穀物を育てるのが難しかったために、食糧不足に陥っていると思っていたが、そうではなく、食料が効率的に配分されていないことなど飢餓の問題は多くの問題が重なり合って発生していることが分かった。飢餓をなくすために、安定した農業がその国で行われるために、まずはその国が平和でなくてはならないと思う。そして、日本も飢餓に苦しむ国で生産された穀物で家畜のエサがまかなわれているなど、日本も無関係ではないと知った。単一作物の生産に依存してしまう仕組みを世界全体で変えていかないとけないと思った。</p> <p>レポートを書き、考えを整理した後で、これからあなたが生きていく中で、どのような行動ができるか、アイデアを、行動宣言として下の口の中書きましょう。</p> <p>行動宣言</p> <p>(例) まずは、学校給食からフードロスをなくす。</p> <p>(例) 一生懸命勉強して、将来、厳しい環境でも育つ植物を開発する。</p>
--	---

コラム 論理的思考を養うチャンス! 「行動宣言」への問い返して思考の過程を再確認

上記の例のように「学校給食からフードロスをなくす」という行動宣言を導き出した生徒に「その宣言は自身が設定したテーマ(飢餓に苦しむ人がいない世界)とどう繋がるのか」と問い返すと、何と答えるでしょう?課題を構造的に理解していれば、行動宣言がどのように課題解決に繋がるか論理的

な説明ができるはずですが。もしかしら「学校でフードロスをなくしても、飢餓で苦しむ人に食料が行き渡ることには直結しない」といった気付きから、日本のフードロスの解決をどのように世界の飢餓撲滅に繋げていくのか、さらなる課題解決方法を探ろうと学びが深まるかもしれません。

5 活用のアイデア

総合的な学習の時間・各種研修会にも!

本教材は、世界の課題だけでなく、日本にも関わる問題や、日本の貢献、また具体的なアクションや解決策のコラムで構成されており、生徒の幅広い興味・関心に応えられる教材になっています。社会科に限らず、総合的な学習の時間において国際理解等を内容とした探究課題として活用することも可能です。世界にある様々な課題に出会い、疑問をもち、テーマを設定する手助けに、ぜひ活用ください。また、持続可能な社会の創り手を育てることが求められる中、SDGsについてどのように学習を進めていくか、先生方に学んでいただく教員研修会等でもご活用いただけます。



コラム 質問「SDGsは2030年までに達成できますか?」にどう答えますか?

SDGsには野心的な目標も多く、「本当に達成できるの?」と疑問に思う生徒も少なくないようです。なぜ目指す姿が高く掲げられているのか。それは、目標達成を大前提に「できること」ではなく「やるべきこと」を協力して成し遂げること(バックキャストの考え方)を求めているからです。現在のやり方の改善だけでは到達不可能なレベルの目標を設定されたとき、人は従来の「改善」というオプションを捨てて、根本的に異なる発想を試みます。そこに生まれる「創造的破壊」や「イノベーション」といった世

界を変える力に大きな期待が寄せられています。「次のテストで90点取りたい」と目標を決めた子どもは、先生に「本当に90点取れますか?」とは聞いてきません。目指す姿に到達できるかは自分次第と分かっているからです。一人ひとりがSDGsを自分ごとと捉え、2030年(それ以後も続く世界が持続可能なものであるためのチェックポイントの年)に向けて「やるべきこと」を考え、行動に移してくれることを願っています。

〈資料に関するお問い合わせ〉

公益財団法人
日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス
☎ 03-5789-2014 FAX 03-5789-2034 ✉ se-jcu@unicef.or.jp

SDGs 副教材『私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～』 アンケートにご協力ください

教材の活用状況の把握、および、今後の教材制作・改善のため、教材をご活用くださった先生方に
あたたかいお力添えを賜りましたら大変ありがたく存じます。何卒よろしくお願いいたします。

問1 この教材を活用した対象・教科等 (複数回答可)
<input type="checkbox"/> 中学3年社会科：単元() <input type="checkbox"/> その他の教科・学年：教科・単元() 学年() <input type="checkbox"/> 上記以外の教育活動：()
問2 授業や活動の流れのなかで、本教材をどのように活用されましたか？ また、教材を使用した目的をお知らせください。
問3 教材の使いやすかった点、使いにくかった点をお知らせください。
使いやすかった点： 使いにくかった点：
問4 教材以外に使用されたものがあればお知らせください。(複数回答可)
<input type="checkbox"/> 副教材ポータルサイト <input type="checkbox"/> SDGs CLUB <input type="checkbox"/> 映像(タイトル：) <input type="checkbox"/> 指導用参考資料 <input type="checkbox"/> 外務省ホームページ <input type="checkbox"/> 日本ユニセフ協会ホームページ <input type="checkbox"/> その他()
問5 生徒の皆さんの行動宣言の例(多かったもの、ユニークだったもの等)、および、 教材を活用して得られた学び、ご感想、ご意見等をお知らせください。

ご協力ありがとうございました。

(差し支えない範囲でお知らせください)

学校名： _____ (_____ 都・道・府・県)

教諭名： _____ 教科およびご担当： _____

=====
送信先：(公財) 日本ユニセフ協会 学校事業部

FAX : 03-5789-2034

(公財)日本ユニセフ協会からのお知らせ

子ども向けSDGsウェブサイト **SDGs CLUB**

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

SDGs CLUB の特長

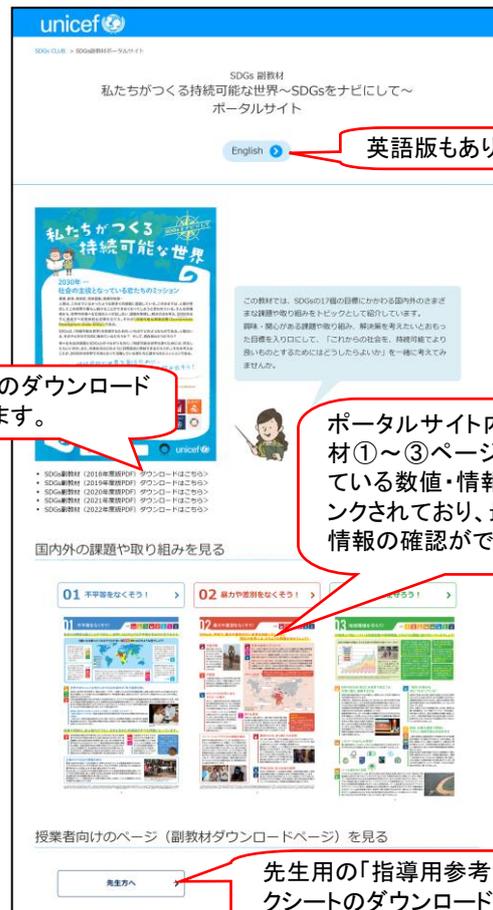
- ◆ 17 個の目標のもとにある 169 のターゲットの「子ども訳」を掲載
- ◆ それぞれの目標ごとに、関連する課題を学べる動画やグラフを掲載
- ◆ SDGs とは何か、うまれてきた背景や歴史、めざす世界像も学べる
- ◆ 自身の行動宣言を投稿したり、ほかの人の行動宣言を読んだりできる

スマホ・タブレットからもどうぞ！



SDGs 副教材ポータルサイトに接続！

SDGs 副教材『私たちがつくる持続可能な世界』ポータルサイトには、副教材に掲載されている情報の出典や、映像教材、外務省、JICA などの関連サイトへのリンクがあり、生徒のみなさんの調べ学習に最適です。あわせてご活用ください！



英語版もあります。

副教材のダウンロードができます。

ポータルサイト内では、副教材①～③ページに記載されている数値・情報の出典がリンクされており、最新の数値・情報の確認ができます。

先生用の「指導用参考資料」やワークシートのダウンロードができます。



ユニセフセミナーシリーズ 申し込み受付中！

教員の皆さまを対象にしたユニセフセミナーを、今年もオンラインで開催(6月～8月)いたします。SDGs や子どもの権利条約をテーマにした、全4回のセミナーについて、お申し込みを受付中です。ご興味のある回に、全国からお気軽にご参加ください！



※ 本件に関するお問い合わせは、下記、事務局までご連絡ください。

(公財)日本ユニセフ協会 学校事業部
TEL:03-5789-2014/FAX:03-5789-2034/Eメール: kouza@unicef.or.jp